

# 総合学習「おまつり」の実践

(養護学級高学年組)

竹林地 毅

## 1. 学習における内容や活動の統合化の構想

障害児教育においては、いわゆる「合科・統合」の指導方法が古くから実践されている。この背景には、子どもたちの心理、学習の特性（推理、判断、統合、応用などの能力の未分化性）や学習集団の特質（個人差、能力差、学習集団の大きさ）等があり、合科・統合のよりどころとしては、学校教育法施行規則第73条の11に「各教科に属する科目の全部または一部について」、「各教科、道徳、特別活動及び養護・訓練の全部または一部について」、「合わせて授業を行うことができる。」と示されている。



障害児教育では、児童の実態と課題（個人の実態と課題及び集団としての実態と課題）を明確にし、それに応じた目標を設定し、ふさわしい内容を選定し、適切な方法で指導することが大切である。そこで私達は、指導内容については各教科、領域をまとまりとして整理し、指導については各教科、領域の内容を各教科、領域別の時間を設定して指導するもの、各教科、領域の内容をあわせて指導するもの、さらに分けることのできない一つのまとまりとして指導するもの等を考えている。

内容を分けることができない一つのまとまりとして指導する学習として「総合学習」がある。

## 2. 養護学級でとらえる総合学習について

従来、生活単元学習として、あるいは学級行事として取り扱っていた内容を検討し、それらのねらいも問い直し、活動を通じて内容を指導する学習、つまり総合学習として位置づけた。

### (1) 総合学習のねらい

- ・多様な集団の中で、様々な人間関係を持ち、その中で自己表現、自己承認、仲間作りをさせる。
- ・生活の中での実践、生活への応用でさらに定着を図るとともに、生活経験を広げ豊かにさせる。
- ・学校生活で不足しがちな、自然への関わり、物を作る、育てるという楽しみを経験させる。

### (2) 総合学習の内容区分

区 分	記 号	内 容
季 節 行 事	A	児童が楽しみながらできる、児童中心の季節行事
集 会	B	学級行事や集会
校 外 学 習	C	野山や公園などでの遊び、公共施設の利用、見学
宿 泊 学 習	D	校内、校外での宿泊
調 理 実 習	E	季節行事、集会、宿泊学習で食べるものの調理
労 作 ・ 製 作	F	畑作り、収穫などや大きな物の共同製作

### 3. 総合学習の指導とテレビ番組『いってみようやってみよう』の視聴

『いってみようやってみよう』のねらいとして、次の4点が挙げられている。

- ・健康・安全に留意し、基本的な生活習慣を身につける。
- ・あいさつ、人との対応、交通道德など、社会生活の基本的なルールを理解する。
- ・公園や遊園地、郵便局や交番、電車やバス、あるいは各種の商店など、公共機関や社会施設の役割や仕組みを知り、必要に応じて利用しようとする態度能力を育てる。
- ・自然に関心を持ち、自然の恵みの豊かさを知る。

これらを通じて、子どもたちが積極的に、地域社会の中に出て行こうとする意欲を育てることをねらっている。以上のことは、前述の総合学習のねらいと同じでもある。総合学習の指導で、『いってみようやってみよう』の視聴をすることで、学習への動機づけをしたり、活動の見通しをもたせることができるのではないかと考えている。

年間指導計画については『教育課程の編成』を参照されたい。

### 4. 総合学習「おまつり」について

本単元は、ここ数年10月後半の約2週間、学級全体で取り組む活動として設定してきた。児童の居住している地域でもこの時期お祭りが行われるが、自ら作り出す「おまつり」を校内に設定することで活動内容をひとり一人に合わせられ、多様な展開ができる。また、教師と児童が一緒になって取り組み、活動の成就感をもたせやすい。その中で友だちとの協力や自発的な行動を育てていくことができると考えられる。

#### (1) 指導にあたって留意した事項

学校行事の「しののめ祭」に関連させ、「しののめ祭」にも同じ模擬店を計画するようにし、学習したことを再度体験する場として利用した。また、低・中・高の3クラスで児童の希望を入れながら分担して準備を進めるようにした。特に中・高学年は昨年までの経験を生かし、活動内容を自分たちで選択・企画させるようにした。おまつりに他学級の児童を招待し一緒に踊ったり、模擬店のお客となってもらい、事後、写真展を開くことで関わりが広がり深められるように考えた。

また、放送視聴も取入れることで過去の経験を思い出させたり、活動の見通しをもたせるようにしたいと考えた。番組としては『ワンツー・どん』『いってみようやってみよう』を視聴させた。

#### (2) 児童の実態

本単元に関する児童の実態を「活動の見通し」「協力して活動する」の2つの観点で整理した。

	児	実 態	課 題
活動の見通し	⑮	毎日の活動なら自ら動けることが多くなった。	具体物などを手がかりにして次の活動を考えられる。
	⑩⑪ ⑫⑬	予め予定を決めて知らせておくと次の活動を考えられる。	自分で次の活動を考えて行動できる。
	⑭	自分なりに計画をたてようとし見通しを持った行動ができつつある。	校内だけでなく実生活で応用できる。
協力して活動する	⑮ ⑩	その場で指示したり援助すると一緒に活動できる。	指示がなくても最後までみんなと一緒に活動する。
	⑫ ⑬	予め伝えておくと一緒に活動できる。	自分なりの思いをもって一緒に活動する。
	⑪ ⑭	自分なりの思いがあるがそれを他に伝えて一緒に活動しようとする。	他の児童を積極的に誘って一緒に活動できる。

#### (3) 指導目標

前頁の実態から、指導目標としては次の2点を考えた。

- ・児童の生活経験をもとに、作る、楽しむ活動を学校生活の中に実現し、社会的な行事への関心を

持たせる。

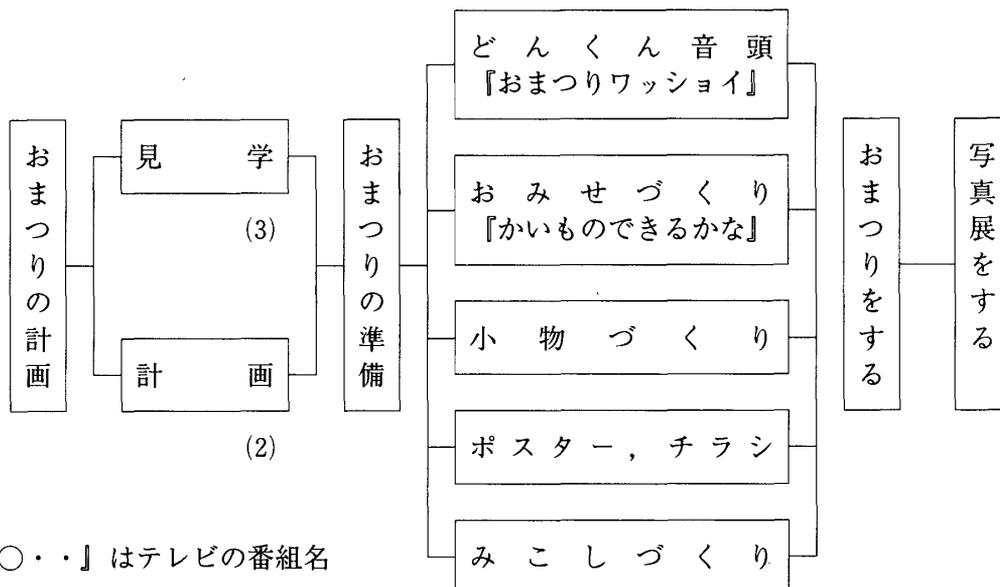
・社会的な行事に友だちと協力して主体的に参加できるようにする。

(4) 指導内容と計画……………22時間

第一次(5)

第二次(12)

第三次(3) 第四次(2)

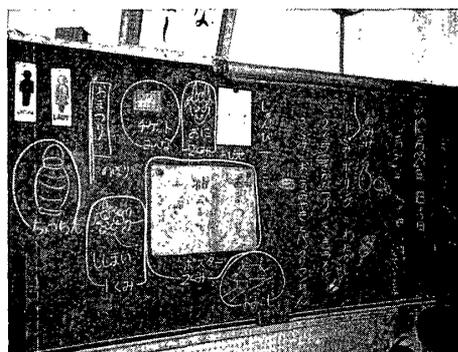


『○○○・・・』はテレビの番組名

## 5. 実践経過

### (1) まつりの計画

「まつりをしよう」と朝の会で話すと、すぐさま「たこ焼き」「さかな祭り」などお店に関する意見が出された。昨年までの経験がしっかり意識の中にあることがうかがえた。そこで、指導者の地域で行われたまつりのビデオを視聴した後、3クラス合同で計画を立てた。お店は1組（ボーリング、わたがし）、2組（さかな祭り、キャラメル）、3組（おこのみやき、パッキリわんちゃんゲーム）に決まった。準備の分担は次の表のようになった。準備物を考えるときに、ビデオの映像がヒントになっていたようである。3組は、例年たこ焼きを作っていたが、映像の中にあつたおこのみやきが店の印象が強く、指導者の予想がはずれてしまった。また、「ちょうちん」「おに」「ししまい」は過去の経験にないものであり、映像を見て、準備物として児童の中から意見が出たものである。



1組	ししまい
2組	ポスター, おに
3組	おしらせ, のぼり
全員	おみこし, ちょうちん

例年、校外学習として実施していたお祭りの見学は、日程が合わなかったこととビデオの映像が予想以上に活動内容の理解を促したので中止した。

以上は2単位時間の扱いとした。

### (2) おまつりの準備

#### ① どんくん音頭

テレビ番組『ワンツー・どん』で放送された「どんくん音頭」を週2時間ずつの表現、音楽の時間に指導し、おまつりの学習の雰囲気盛り上げた。法被の着用もあって学級の雰囲気は高まった。

#### ② おみせづくり—買物の事前指導を中心に—

お好み焼きは、家庭でときどき作って（もらって）食べている児童がほとんどであった。買物、

調理という学習は、過去、よく学習していたが、家庭生活への広がりがいまひとつなく、身近なメニューだけに生活への広がりをねらいたかった。次の指導案は買物の事前学習として、放送番組の利用と指導案を作る段階で児童の活動（つまづき、ずれ）を予測して指導の手だてを考えようとしたものである。

本時の目標

- ・ お好み焼きの材料を考え、買物をする計画をたてさせる。

目 標	行 動	児
具体物の中から材料を選び、カードを選べる		⑮
材料のいくつかを考え発表し、話合いのルールに従って分担を決めれる		⑩
材料のいくつかを考え分担を決めたり、買物をするお店を考えれる		⑪⑫
材料のいくつかを考え分担を決めたり、お店のちらしを見て値段を読み取る		⑬⑭

準備物

ビデオ視聴機器一式、買物カード、たこ焼き、写真パネル、ちらし、具体物（卵、小麦粉など）

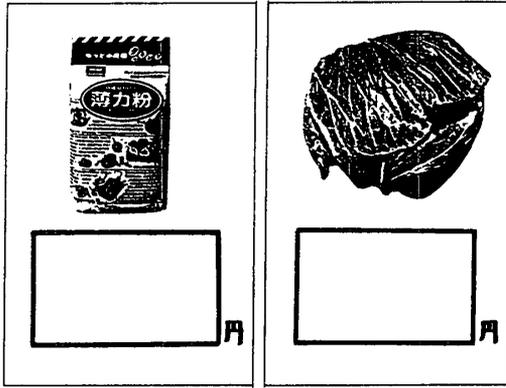
展 開

学習過程	予想される活動	指 導 上 の 留 意 点	
		全 体	個 別
1. はじめの挨拶をする。	・何か匂うと言うであろう。(児⑪⑫)	1・学習の始まりとして位置づけ、毎時間行う。	1・児⑪⑫の発言をもとにおまつりの内容を尋ねることも考える。
2. テレビを視聴する。	・音楽の無い画面には集中しにくいであろう。(児⑩⑮) ・買物の注意を発言するであろう。(児⑫⑬)	2・なっちゃんが買物に言ったことを伝えると共にテレビを視聴しやすい位置に移動し画面に集中しやすくする。	2・児⑩⑮にはそのつど言葉かけなどする。 ・児⑫⑬の発言は認め、他の児童にもしらせる。
3. お好み焼きの材料をカードに書き、買物の分担をする。	・尋ねると材料を考え発表するであろう。(児⑩) ・材料を考える意識は高まらないであろう。(児⑮) ・買う店を考える時に、S商店の名前を挙げるであろう。(児⑪) ・値段の記入に困るであろう。	3・お好み焼きを食べることで足りない材料を考えさせる。 ・材料カードと名前カードを結び付けることで分担をわかりやすくする。 ・買い物の場所を決める手がかりとして学校近くのスーパーや商店の写真パネルを示す。 ・値段を記入する手がかりとしてちらしを配布する。 ・カードの記入は個別に援助する。	3・児⑮の発表を促すために具体物を提示する。 ・児⑩には個別に発問をして発表を促す。 ・分担を決める司会は当番の児⑫の役とする。 ・児⑪の発言をもとにそれぞれの店で売っているかどうかを尋ね、買物にいく店を考えさせる。 ・カードの記入 児⑮……絵の選択 児⑪⑫……視写、なぞり 児⑩⑬⑭…視写
4. 終わりの挨拶をする。		4・学習の終わりとして位置づけ、毎時間行う。	4・号令は当番の児⑫がかかる。

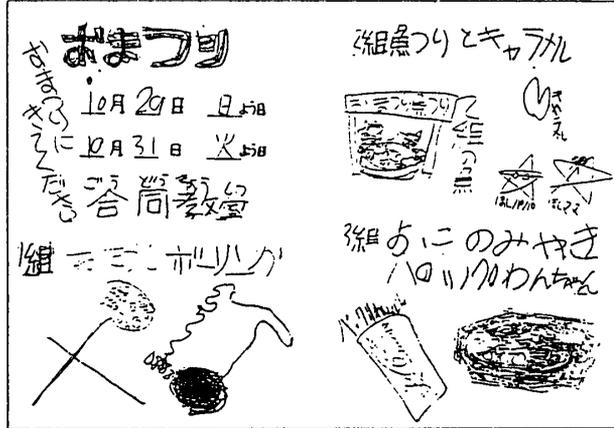
授業の流れと児童の様子

学習過程	指導者の活動	児童の活動
はじめの挨拶をする	「テレビの中に誰がでてくるかね」 テレビを移動する 「S君みえる？」	児⑫「なっちゃん、ポッケ」 児⑫「なっちゃんが見える」 児⑫返事はなく下敷を見ている。
テレビの視聴をする (オープニング)	児⑫の発言にうなづく	児⑫「あ…あぶない」(ポッケを見て) 児⑫⑬テーマソングに合わせて踊りだす。 全員画面に集中する。
(タイトル)		児⑬「かいものできるかな」 児⑪「ポッケじゃ」
(昼のメニュー)	児⑮の動きを言語化して児⑮にささやく	児⑮後方の参観者を見る 児⑮なっちゃんの食べるまねと一緒に食べる真似をする
(買物の相談)		児⑮画面を指さす 児⑫画面に合わせて拍手
(買物に行く)		児⑩⑪⑮画面から視線が離れる
(買物をする)		全員画面に集中する 児⑫「何買いに行くん？」
(バナナの歌) (エンディング) 番組を思い出す	児⑫に話しかける 児⑩に話しかける 「テレビの中で何か作ってたべました」	児⑩コマーシャルを言う 児⑮画面を指さす 児⑩⑫⑬⑮音楽に合わせて体を動かす 児⑪「パン、バナナ」 児⑬「バナナジュース」 児⑮挙手する 児⑮手をグルグル回していくしんぼうのサインをする
お好み焼きを食べる	「パンの中にはたくさん入ったね。 くいしんぼうのパンじゃね」 児⑮に話しかける 「養護学級3組でもこの前何か食べたね」 「この前みんなが作ってくれたので今日は先生が作ってきました」 皿だけ配る	児⑫「お好み」 児⑩下敷を出して見はじめる 児⑬それを注意する 児⑪⑫⑬⑮指導者の動きを見ている 児⑪「なんにもないよ」 児⑫嗅いでみる
	「なんにもない？それじゃこれ」 箸を配る 「じゃこれ」	児⑪⑫⑬「ないないない・・・」 児⑬「おこのみやき？」 児⑭「いいにおい」 児⑫「もち」
材料を考える	「何がはいつとるかね」 「もちは入っていません」 「この前作ったのには何が入ったかね」 「Yさんが切ったの」 「そう、いためたね」 「もう、これだけあったらできる？」 ソースを見せる 「あとは……」 「かのつくもの」 「こうしてまぜるのは？」 「この前S君が割ったのは？」 「今日はこんなのをいれたらいいと思うものを持ってきました」 材料を袋から出す マヨネーズを出す 「えー嫌いなん」 「マヨネーズをいれる？」 「じゃ、入れたのと入れないのを作ろうね」 「もうええかね？広島のお好み焼きにはまだ入っとるよ」 「ごはんはいれんよ」 「H君、この前入れたのは？」	児⑪「キャベツ」 児⑫「にく」 児⑫「ねぎ」「にく、いためるんよんね」 児⑮手を挙げる 児⑫「ソース」「おこのみソース」 児⑪「のり」 児⑭「からし」 児⑪「かつおぶし」 児⑪⑬「こむぎこ」 児⑪「たまご」児⑩「たまご」 児⑪⑫⑬「たまご」「かつおぶし」 児⑮小麦粉の時挙手する 児⑩「マヨネーズ」 児⑭「きらいよ」児⑫「いれんの」 児⑪「だめ、たべんといけん」 児⑭「いちばんきらいよ」 児⑮挙手する(いれる) 児⑩⑪⑬「いれる」 児⑫⑭「いれない」 児⑫「いれない」 児⑪「とんがらし、ごはんにとんがらし」 児⑬「そば」 児⑫「うどん」

<p>買いに行く店を決める</p>	<p>「そばを入りたい人？」</p> <p>「S君は？」 「Oさんは？」 「日曜日に焼くので材料を買いに行きましょう」 「下岡に行くかな・・・」 写真パネルをだす</p>	<p>児⑩「そば」 児⑫「だめ、うどん」 児⑪⑮挙手する児⑬「はい」 児⑫「だめ、うどん」 児⑩「そば」 児⑭「そば」</p>
<p>買うものを決める</p>	<p>「それじゃ決めますよ」 「下岡に行きたい人？」 パネルの下に名前カードをはる</p> <p>「マルシェに行きたい人」 児⑮に確かめる 「下岡に全部あるかね？」</p> <p>「Sさん何がないかね？」</p> <p>「肉はないと思うけど」</p>	<p>児⑩「明日は下岡商店行く」 児⑪「あいとるよ」 児⑩席をたって他のパネルをだす 児⑫「こっち、マルシェがいい」 児⑪「だめよ」「しもおか」 児⑬「おうちがいい」 児⑫「ママも行きよるよ」 児⑩⑪⑭⑮挙手する 児⑭「4人じゃ」 児⑪「ひとりでマルシェに行きんさい」 児⑫⑮挙手する 児⑮写真パネルを指さす 児⑪「あるよ」 児⑬「ないよ」 児⑬「マヨネーズとね……」 児⑪「あるよ」 児⑩「あ……」下岡に行くことに決まらないので苛立つ</p>
<p>司会はじゃんけん 児⑮になる</p>	<p>「どこに行くか決まりそうで無いので、先に何を買うか決めましょう」</p> <p>「ソースを買う人」</p>	<p>児⑮葱を持ってみせる 児⑪「はい」 児⑮キャベツを取りかけてソースを取る 児⑪指導者の方を指す</p>
<p>再び、行く店を決める</p> <p>買物カードに記入する</p>	<p>「じゃ後で決めよう」 「小麦粉買いたい人」 「キャベツを買いたい人」 「マヨネーズ買いたい人」 「じゃんけんしよう」 「マヨネーズあったかね」 「かつおぶし買いたい人」 「まだ決まってない小麦粉は？」 「ところで、司会のUさんはどれを買いたいん？」 机の上の材料を指さす</p> <p>「H君に頼んでみよう」 「Uさん、ソースでいいかね？」 「あおのり買いたい人」</p> <p>児⑬に話しかける 「まだ肉と卵も決っていません」 「Oさんは何がいいですか？」</p> <p>児⑩に話しかける</p>	<p>誰も挙手せず 児⑫「はい」 児⑬挙手 児⑩指導者に再度聞かれて挙手 児⑩勝つ「下岡商店いく」 児⑩「マヨネーズあった」 児⑫⑬⑭挙手じゃんけんして児⑭になる 児⑪挙手する</p> <p>児⑩「ソース」 児⑮キャベツを取る 児⑫「だめ、ソースにしんさい」 児⑮うなずく 児⑬⑭挙手、じゃんけんして児⑭勝つ 児⑬下を向いてしまう</p> <p>児⑬「たまご」 児⑫「うどんかいたい」 児⑩「そば」 児⑫「にくがいい」</p>
<p>再び、行く店を決める</p> <p>買物カードに記入する</p>	<p>「今日のカードはいつもと違います」 「買う物の名前と値段を書きます。値段の書いてあるちらしを持ってきました。これを見て書いてください」</p> <p>「書いたら前に持ってきてください」 「明日持ってくるものがあります」 「連絡帳には書かないので自分でお母さんに言ってください」</p>	<p>カードを受け取って記入しはじめる 児⑩⑬名前を書くと言うのを聞いて、品物の名前ではなく自分の名前を書く 児⑫ちらしの値段を読みはじめる 児⑭同じ値段を発見する 児⑪指導者とカードに品物の名前を書く 児⑮ちらしの絵に丸をする 児⑬「マルシェにする」</p> <p>児⑪⑭「さいふ」</p>

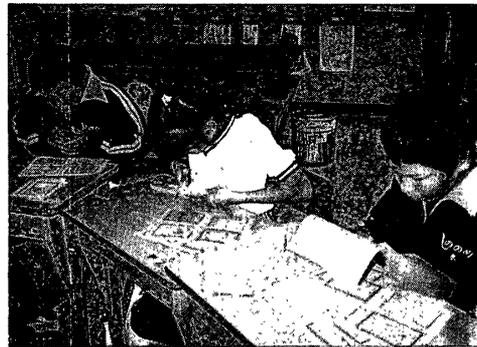
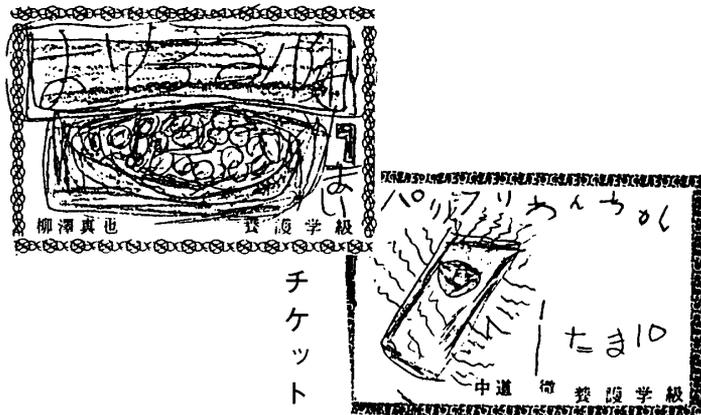


材料カード



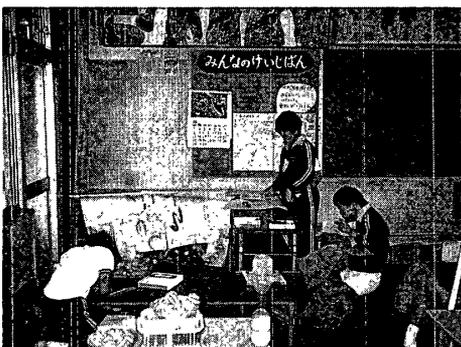
おまつりのおしらせ

その他、チケット作りや店ののれん作りをした。



### (3) おまつりをする

前日、全員で合同教室（養護学級の多目的教室）を飾り付けをし、店の準備をした。



日曜参観日と平日の2回実施した。日曜参観日にはここ数年実施しており、保護者だけでなく兄弟姉妹の参加を得る場ともなっている。みこしを担いで校舎の周りを回った後、それぞれの店の準備にかかる。前日配布しておいたチケットを持って保護者が店をまわられる。

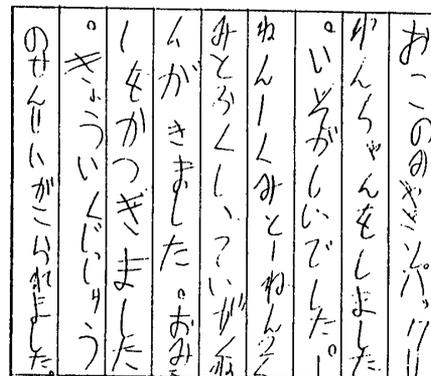
2回目の日は1年生1, 2組と複式低学年組の児童を招待して実施した。時間を決めておいて交代で来てもらった。それでも、どこの店もフル回転であった。チケットを受け取りゲームの道具を渡す、得点を数えてカードに記入する

マヨネーズをつけるかどうか尋ねるなどの対応をどの児童もこなしていった。

### (4) 写真展をする

おまつりで体験したことを素材とし、時間をおかずに文章化することで学習のまとめとすることと養護学級の学習活動を他学級の児童、他の教職員に知ってもらうことをねらって、写真展をした。

宿泊学習の時にもしているの、書くことの見通しがあり、他学級の児童に読んでもらう、見てもらうという意識があった。右の写真パは児童⑬の書いたものである。



## 6. 考察

総合学習は活動を通して内容を指導する学習だという考え方を最初に述べた。個が生きる授業になったかを考察する視点としては、実態のところ整理した「活動の見通し」「協力して活動する」以外にも技術的なものもあるであろう。同じ総合学習として位置づけている宿泊学習については「社会的態度」「自主的態度」「科学的態度（知識）」の視点から評価項目を作っている。おまつりについてはそこまでの評価項目が整理できていない。そこで、今回は「活動の見通し」「協力して活動する」の視点から考えられ易い買物の事前指導の授業を考察してみたい。

### (1) 個に合わせた指導内容・方法であったか

本時の目標は『お好み焼きの材料を考え、買物をする計画をたてさせる』であった。目標行動達成のために具体物（小麦粉、ソースなど）や買物カード、写真パネル、ちらしを手がかりとして用意した。また、活動の見通しを持たせるために放送番組の利用を考えた。

材料を考えるきっかけとして用意した何も入っていないお好み焼きは多少インパクトがあったものの、児⑫には先行経験としての調理実習の方がよく生かされていた。

放送番組の映像は児童をよく引き付け、特に児⑩、⑮の視聴態度は予想したものと違っていた。特に児⑮は映像に対するリアクションがかなりあった。映像の理解はしっかりあるように思えた。本児は後半、司会となったが、具体物があったことで発話はなくても活動ができた部分があった。しかし、司会を本児がすることを全く予想していなかったため、司会の手順までは考えておらず、決定したことを視覚的にとらえやすくすることが不十分であった。分担が決まる度に担当の児童の所へ具体物を運ばせるという活動があった方が本児の活動の理解を更に促したと思われる。

行く店を考える手がかりとして用意した写真パネルは大変有効であった。児⑩の下岡商店へのこだわり、児⑫、⑬の自分の生活経験からのマルシェとおうちへのこだわりが話し合いを活発なものにさせた。せっかくもめたのだから、集団の育成の面から考えて、解決方法について考えさせる時間を持つべきだったと思う。本時で初めて使用した形式の買物カードについては、記入方法の説明が言葉だけになったために混乱をまねいた。示範をする必要があった。

### (2) より望ましいコミュニケーションはあったか

児⑩には下岡商店に行きたい気持ちが強かった。児⑫、⑬が他の店での買物を主張したことで自分も他の店にいくかのように受け止めたらしく、指導者が下岡商店に行くことを何度も伝えるまでかんしゃくを起こした。買物に分かれて行けることをはっきり伝える場面がなかったのと、過去、いつも全員で同じ店に行っていたことが原因として考えられる。

話し合いのしかたをいつもと変えるときには、場面を整理してスタートすることが必要だった。

## 7. おわりに

この学習が終わってしばらくして、児⑫の連絡帳に次のような記述があった。

「昨日の夕御飯をどうしてもお好み焼きを食べたいというさく言うので、そんなに食べたいのなら自分で買ってきて作りなさいと言うと、近くのスーパーに一人で買物に行き材料を揃え、作って食べました」

学校での学習がこのようなかたちで家庭生活に生きることこそ、個が生きる授業を通して願っていることである。